



宇部環境国際協力協会（宇部アイカ）の活動の状況と方針

宇部環境国際協力協会 理事長 松田 博

宇部環境国際協力協会（宇部アイカ）は宇部市の環境NPOの一つとして1998年に設立されました。産官学民が協働する「宇部方式」による公害対策が高く評価され、国連環境計画から「グローバル500賞」を受賞したことが契機です。以来、地球環境の保全に貢献することを目的とし、様々な環境問題に直面している開発途上国への環境国際協力を進めています。

宇部アイカの活動は多岐にわたり、独立行政法人国際協力機構（JICA）、自治体国際化協会（CLAIR）や、山口大学をはじめとして多くの市内企業や市民のご支援を受けながら、環境保全や環境技術の移転のための招聘研修や専門家の派遣を行っています。また、市民に対しては環境意識啓発のためのセミナーや講座、イベント時のパネル展示なども開催しています。

今後の活動の方向性としては、以下の点が挙げられます。

1. 研修と技術移転の強化：



2024年度JICA青年研修（都市環境）スリランカ・モルディブの開講式（8.21）

相手国のニーズに沿って、市内の企業や大学が有する先進的な環境保全技術を、さらに多くの開発途上国に提供するため

に研修プログラムを拡充します。これにより現地の環境問題解決に寄与することを目指します。

2. 市民参加型の環境保全活動の推進：

市民やボランティアと外国人との交流を深めることによって、国際社会の動きも踏まえつつ、地域社会全体で環境保全意識を高める活動を強化します。環境国際セミナーや環境保全技術講座では、市民だけでなく市内在住の外国人や留学生の参加を募り、より多くの市民と外国人が共に学ぶ機会を提供します。

3. 持続可能な開発目標（SDGs）の推進：

「SDGs未来都市うべ」の一員として、環境保全活動を通じて持続可能な社会の実現を目指します。特に次世代を担う学童や若者を対象に、宇部市のESD環境教育・環境学習を海外へ伝承普及し、人財育成に繋げていく事業を計画します。宇部環境国際協力協会は、これからも地域社会と国際社会の架け橋として、地球環境の保全に向けた取り組みを続けていきます。



2024.9.28
CLAIRの研修で来られたスビオリ島のTrash Heroが常盤西海岸にて清掃活動



2月のイベント

2月11日（火・祝）・22日（土）両日13:00～16:00
環境サロン（2回シリーズ）
「『断熱』を学び地球を救い住まいを快適に」
場所：宇部市立図書館2階講座室



2月15日（土）9:00～11:30
中川河口ヨシ原の清掃活動
集合場所：中川ポンプ場 北側駐車場
申し込み2月6日午前中まで
ubekankyocom@gmail.com 0836-39-8110
詳しくは うべっくるHPまで

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

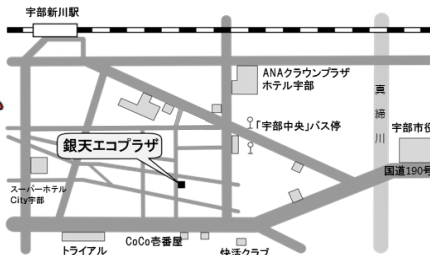
宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始（12月29日～1月3日）



HomePage



facebook



x

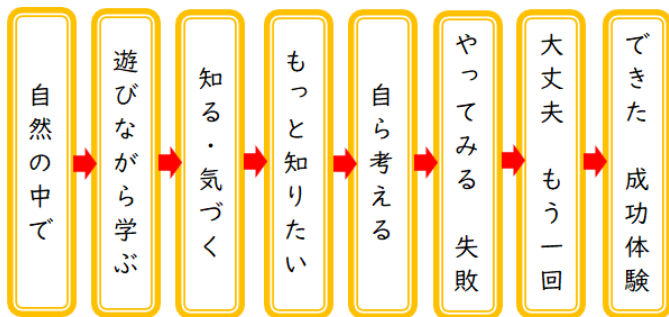


NPO法人うべ環境コミュニティ

『幼児期に自然の中で遊ぶ大切さ』

保育士・社会福祉士・うべ子育てパートナー 松原美子

私はこれまで、長年子育て支援に携わってきた。児童虐待に心を痛め社会福祉士の資格を取得し、目線を変えることができた。虐待は親だけが悪いのではなく社会がおかしいのでは。考える中で御縁があり『かたって銀天』に参加し新たな目線を得ることができた。「金だけ・今だけ・自分だけ」でいいのかの言葉が刺さった。ああそうだ、今そんな世の中になっている社会が変だ！学習会で紹介された仏教についての本を読むと目が覚めるようだった。私は、光善寺という寺で育った。渡邊祐策翁によって宇部市で初の幼稚園、博愛幼稚園が明治42年10月に開設されたのが光善寺だ。119年前に幼児教育の大切さを渡邊翁は知っていた。



心を育てるイメージ図

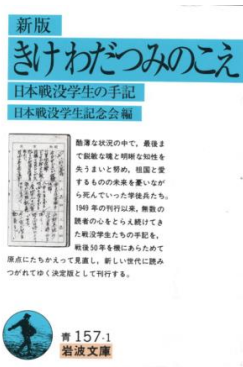
共働きで忙しい今、親子で過ごす時間が限られるが、少しの間でも子どもの声(言葉)を聞いて欲しい。親が子どものためと思っていても、大人が決めるのではなく子どもにどうしたいのか聞いて欲しい。子どもが自分の思いを伝えることが自立・主体性を



寄贈図書紹介

「きけわだつみのこえ」岩波書店

1995年12月に刊行された、この本の旧版は1949年10月に出されていますが、さらに、その元は、1947年12月に東京大学戦没学生手記編集委員会の編集により東大協同組合出版部から出された「はるかる山河に」にあるようです。39名の東大生の手記、書簡、短歌等の遺稿を集めたものでした。その後、日本戦没学生手記編集委員会がつくられ、新聞ラジオなどを通じ広く全国の大学高専出身の戦没学生の遺稿が募られ、309人の中から精選して75人分がまとめられたとのこと。「わだつみ」は「海の神」を意味する言葉のようです。



育てる第一歩だと思う。幼児期は、自然の中で遊ぶ学ぶことが多いと思う。日本の八百万の神は、自然や米粒の中にまでいる。他の国の宗教に対しても寛容であるのはそこから来ていると思う。お寺など宗教が母体の園では、自然に『感謝の心』と『命の尊さ』が身につくように思う。

『寺子屋』『かけこみ寺』というように地域のつながりの場であるお寺のあり方が今、見直されている。

博愛のあゆみ

○明治42年10月
西新川の光善寺山門内に私立
博愛幼稚園開園

○明治43年9月
理事(庄 晋太郎、小川是山、
末永理一、三井雄吉各氏)のご
協力で上町郵便局あたりの松原
の中に新しく建物ができる。



博愛幼稚園開園記念
(創立七十周年はくあい70年のあゆみより)

『博愛のあゆみ』より大正4年に卒園した方の「失われた自然、その自然に密着して生活し育ってきた私達は幸福だ。今の幼児は気の毒だ。」の一文が心に響く。



<https://adeac.jp/ube-city-boe/viewer/mp010070-200020/W040>

このたび、なぜ渡邊翁が幼稚園を?と不思議に思い関連本を読んだ。宇部市の為に多くの公共施設の建設に私費を投じていることを知り、郷土愛が育てた宇部をもっと知りたいと思う。

※博愛幼稚園は後に宇部市立となり平成19年3月24日に閉園。



また1982年には岩波書店から発行されることになり、さらに終戦から半世紀を経た1995年には、原典チェック、それぞれの戦没学生の全体像を読みとりやすい配慮、旧版の時期区分を踏襲するが、Iは日中戦争期、IIを太平洋戦争期、IIIを敗戦と名づけて、配列を組み替えたとする新版が発行されることになりました。

学業半ばで戦場に派遣され、人生これからという多くの有為な若者が20代の若さで殉死しなくてはならなかった、彼らの心境に直に触れることで、平和に暮らせることに感謝し、なぜこのような事態に至ったのか、世界を平和に保つためには、我々一人一人がどう考え、どう行動するかに大きな示唆を与えてくれるはずです。是非一度ブックコーナーで手に取って読み、関連の多くの本を図書館なりで読まれることをお勧めします。